

知れば知るほど奥が深い

# お米作りのきほんの **き**



## ～ レベルアップ編 肥料成分の重要性について～



毎年、この時期に水稻の注文書が来ると思います。また、それと合わせて昨年の水稻の状況を思い出しながら使う肥料の量なども考えて注文していると思います。

基本的に作物は、窒素の量が大切。水稻は特に窒素の量で倒伏や病害虫に影響があり関係が深いです。

今回は、肥料の三要素と微量元素の成分について考えましょう。

### 三要素 N-P-K ってどんな成分?!



ぼくたちを入れるバランスがとっても大事だよ!!

#### 窒素(N)

タンパク質、葉緑素、ホルモン物質などの主要成分の構成をしている。

水稻では葉の色が濃くなる、分けつが増える、籾数が増えるなどがあります。逆に多すぎると草丈が高くなりすぎて倒伏したり、病気にかかりやすくなったり、害虫が寄ってきやすいなどがある。

品種によって量を変えたり、昨年の状態を思い出して、施肥量の調整をしてください。

#### りん酸(P)

光合成、呼吸作用などエネルギー代謝の中心的な役割を果たす。

水稻では生長、分けつ、根の伸長、開花・結実を促進させる。特に初期生育の分けつ期に有効。量が少ないと、分けつの低下、開花結実の不良などを引き起こして、収量が減る場合がある。

#### カリウム(K)

光合成、炭水化物の蓄積に関係する。日照不足時などには、施用効果が大きい。

デンプンをモミの内部へ送り込むのに不可欠な成分。登熟期にカリウムが十分あれば粒張りが良くなり粒が大きくなり、穂につく籾の数も増えてきます。カリウムが少ないと、高温時に倒伏が増えたり、下葉から黄色くなってきました。

### その他の要素(微量元素)ってなに?!

#### ケイ酸(Si)

主に、葉の組織強化耐病虫性の増加。ケイ酸は、水稻でもっとも吸収されるといわれている成分で、良食味米を作るために重要な役割を果たします。受光態勢が良くなり光合成をしっかりと行い稲自体を丈夫にし、いもち病などの被害を軽減させます。

#### 鉄(Fe)

水田の老朽化、根ぐされを防ぐ。鉄が少なくなるとガスが発生しやすくなり、根ぐされなどを引き起こし、ごま葉枯れ病(秋落ち)を生じる可能性がある。



私たち2つの要素を一緒に取り入れるには『鉄強化美土里』が良いよ!!

### 計算してみよう!!

肥料袋には、成分表があります。その成分を見ながら、計算をして施肥量を決めていきましょう。

例：スーパーSRコート802(オレンジ・緑) 成分率：18-10-12(N-P-K)

コシヒカリ栽培の場合(指針の窒素量：5.4kg/10a)

$$\begin{array}{ccccccc} \text{(指針の窒素量)} & & \text{(肥料の含有成分率)} & & \text{(施肥量)} & & \\ 5.4\text{kg} & \div & 0.18(18\%) & = & 30\text{kg}/10\text{a} & & \end{array}$$